

第5章 樹種の選定

この章では、具体的な植栽計画において、項目別に樹木の選定や新潟にふさわしい樹木を紹介しています。計画される公共施設の立地環境や機能・目的などに応じて参考とします。

一般地表部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 形態別 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 樹形 (イ) 花木・果実木 (ウ) 紅葉・黄葉 2. 環境条件別 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 荒地・乾燥地 (イ) 地下水位の高い所 (ウ) 強風地 (エ) 潮風地 (オ) 日陰地 (カ) 生物誘致 (キ) 果実栽培への悪影響 (ク) 外来種による悪影響 3. 機能別 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 防火力の高い樹木 (イ) 環境保全機能の高い樹木
屋上緑化	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適応樹木 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 乾燥に強い樹種（低木） (イ) 強風に強い樹種（低木） 2. 利用頻度の高い地被類 （グランドカバープランツ）
壁面緑化	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適応樹木 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 直接登はん型 (イ) 巻き付き登はん型 (ウ) 下垂型
道路緑化	<ol style="list-style-type: none"> 1. 街路樹・植樹帯 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 荒地・乾燥地 (イ) 地下水位の高い所 (ウ) 強風地 (エ) 潮風地 2. 維持管理の容易別 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 積雪耐性 (イ) 雑草抑制力 (ウ) 病虫害耐性

一般地表部

1 形態別

(ア) 樹形

樹形は一般に単独植栽において示される自然の樹木の形とされ、本ガイドラインでは、「円柱形」、「円錐形」、「卵形」、「球形」、「逆円錐形」、「枝垂形」、「地覆形」、「不整形」に区分し、紹介します。樹形とその配置は、景観の印象に大きな影響を与えることから、設置にあたっては生育後の状況を想定し、良好な街並みが形成されるよう十分な検討を行う必要があります。

円柱形	代表的な樹種		 <p style="text-align: center;">ポプラ</p>	 <p style="text-align: center;">ゲッケイジュ</p>	<p>[その他] カイズカイブキ 等</p>
円錐形	代表的な樹種		 <p style="text-align: center;">カツラ</p>	 <p style="text-align: center;">カラマツ</p>	<p>[その他] サワラ ヒノキ ヒマラヤスギ 等</p>
卵形	代表的な樹種		 <p style="text-align: center;">ミズナラ</p>	 <p style="text-align: center;">プラタナス</p>	<p>[その他] スダジイ トウカエデ ユリノキ 等</p>

<p>球形</p> 	<p>代表的な樹種</p>		<p>〔その他〕 ボダイジュ マテバシイ 等</p>
 <p>タブノキ</p>	 <p>クヌギ</p>		
<p>逆円錐形</p> 	<p>代表的な樹種</p>		<p>〔その他〕 ナンキンハゼ ハウチワカエデ 等</p>
 <p>ケヤキ</p>	 <p>ヤマザクラ</p>		
<p>枝垂形</p> 	<p>代表的な樹種</p>		<p>〔その他〕 シダレウメ 等</p>
 <p>シダレザクラ</p>	 <p>シダレヤナギ</p>		
<p>不整形</p> 	<p>代表的な樹種</p>		<p>〔その他〕 サルスベリ イタヤカエデ 等</p>
 <p>エノキ</p>	 <p>クロマツ</p>		
<p>地覆形</p> 	<p>代表的な樹種</p>		<p>〔その他〕 アオキ等</p>
 <p>ハイバクシン</p>	 <p>ハイネズ</p>		

(イ) 花木・果実木

花木

<p>春：高木類</p>	<p>白色花：ハクモクレン（落）、コブシ（落）、オオシマザクラ（落）、オオデマリ（落）、ユキヤナギ（落）、コデマリ（落）等 淡桃花：ソメイヨシノ（落）、ヤエザクラ（落）、アメリカハナミズキ（落）、ハコネウツギ（落）、タニウツギ（落）等 赤色花：ヤブツバキ（常）、ボケ（落）、ヤマツツジ（落）等 その他：ライラック〔紫〕（落）、レンギョウ〔黄〕（落）等</p>
<p>夏：高木類</p>	<p>白色花：ナナカマド（落）、ハクウンボク（落）、エゴノキ（落）、ヤマボウシ（落）、ウツギ（落）、バイカウツギ（落）、アベリア（常）等 淡紅花：ネムノキ（落）、ムクゲ（落）、サルスベリ（落）、ハマナス（落）、シモツケ（落）等 その他：レンゲツツジ〔橙〕（落）、キンシバイ〔黄〕（常）、キョウチクトウ〔桃・白〕（常）等</p>
<p>秋：低木類</p>	<p>紅紫花：ヤマハギ（落）、ミヤギノハギ（落）等</p>
<p>冬：低木類</p>	<p>赤色花：サザンカ（常）等</p>



果実木

赤い実: サンゴジュ (常)、アオキ (常)、コトネアスター (常)、ピラカンサ (常)、マサキ (常)、ズミ (落)、ナナカマド (落)、アキグミ (落)、ウメモドキ (落)、オオカメノキ (落)、ガmazミ (落)、ハマナス (落)、マユミ (落)、ニシキギ (落)、コマユミ (落)、ツリバナ (落)、ツルウメモドキ (落) 等

紫の実: ムラサキシキブ (落) 等



サンゴジュ



ピラカンサ



ウメモドキ



ガmazミ



マユミ



ムラサキシキブ

(ウ) 紅葉・黄葉

秋の紅葉・黄葉は、花木や果実木同様、植栽デザインや景観を印象づける重要な要素となります。樹種により、あるいは植栽した場所の環境により大きな色の変化が見られ、それらを組み合わせることにより景観の奥行きや風格のある景観を創出することが可能です。

高木類

カツラ (落)、イタヤカエデ (落)、ハウチワカエデ (落)、ヤマモミジ (落)、イチョウ (落)、トウカエデ (落)、ナンキンハゼ (落)、モミジバフウ (落)、ナナカマド (落)、ヤマボウシ (落) 等

中木類

ツリバナ (落)、マユミ (落)、ニシキギ (落)、コマユミ (落)、ナツハゼ (落)、ガmazミ (落)、ドウダンツツジ (落) 等

ツタ類

ナツツタ (落) 等

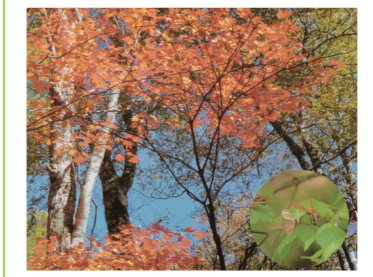
高木類



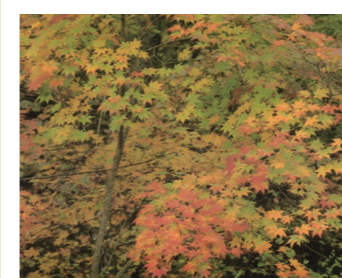
カツラ



イタヤカエデ



ハウチワカエデ



ヤマモミジ



イチョウ



トウカエデ



ナンキンハゼ



ナナカマド



ヤマボウシ

中木類



ツリバナ



マユミ



ニシキギ



ナツハゼ



ガmazミ



ドウダンツツジ

2 環境条件別

(ア) 荒地・乾燥地

荒地や乾燥地では養分が乏しく、一般の樹木を植栽するためには土壌の入れ替えなど植栽基盤の改良が必要となります。このような環境にも耐えて生育する樹種を選定し植栽することで、維持管理を容易にするほか、経費の縮減につながります。また海岸部の砂浜は特異な環境であり、樹種を選定を慎重に行う必要があります。

荒地などに用いられる種

高木類: アカマツ (常)、ヤシャブシ (落)、ヤマハンノキ (落)、シラカバ (落)、ヤマナラシ (落)、ヤマハギ (落)、アキグミ (落)、エニシダ (落)、ヤナギ類 (落)、ヒメヤシャブシ (落) 等
低木類: ポプラ (落)、プラタナス (落)、カラマツ (落) 等



アカマツ



ヤシャブシ



アキグミ

海岸砂地の緑化に用いられる種

高木類: クロマツ (常)、ウバメガシ (常)、カシワ等
低木類: クコ (落)、ハマナス (落)、トベラ (常)、シャリンバイ (常)、ハイネズ (常)、アキグミ (落) 等



クロマツ



ウバメガシ



ハマナス



トベラ



シャリンバイ



ハイネズ

(イ) 地下水位の高い所

地下水位の高い場所や水辺など湿った土地は、一般の樹木では根を伸ばすことができず生育不良になるため、土壌の入れ替えや高植えなど技術的な対策を施さない場合においては、過湿状態に耐えて生育する樹種を選定し植栽することで、設計意図に沿った樹林帯を形成することが可能であり、維持管理を容易にします。

高木類

トネリコ (落)、ハンノキ (落)、ポプラ (落)、メタセコイヤ (落)、ドロノキ (落)、ヤチダモ (落)、カツラ (落)、ラクウショウ (落)、ヤナギ類 (落) 等

低木類

ネコヤナギ (落)、タニウツギ (落)、ノイバラ (落)、コマツナギ (落) 等

高木類



トネリコ



ハンノキ



ポプラ



メタセコイヤ



カツラ



ラクウショウ

低木類



ネコヤナギ



タニウツギ

(ウ) 強風地

年間を通じて、あるいはある一定の時期に強風の影響を受ける植栽地では、樹木は乾燥状態におかれ、枝の変形、枯死、倒木など生育不良を引き起こすことから、強風に耐性のある樹種を選定することが必要です。一般的には常緑樹、あるいは再生能力の高い樹種が適しています。

高木類

クロマツ(常)、アカマツ(常)、スダジイ(常)、サンゴジュ(常)、モチノキ(常)、プラタナス(落)、ケヤキ(落)、ポプラ(落)、シナノキ(落)、チャンチン(落)、エノキ(落)、カシワ(落)等

中木類

ヤブツバキ(常)、ネズミモチ(常)、ウバメガシ(常)、ナワシログミ(常)、シャリンバイ(常)、トベラ(常)、マサキ(常)、ハマヒサカキ(常)、ハコネウツギ(落)、タニウツギ(落)、レンギョウ(落)、ヤマハギ(落)、ユキヤナギ(落)、アキグミ(落)等

高木類



スダジイ



サンゴジュ



モチノキ



ケヤキ

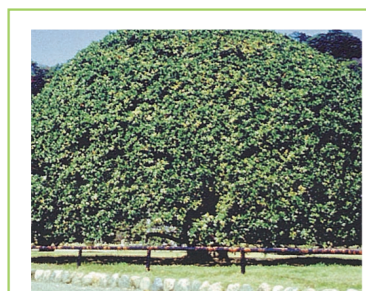


エノキ



カシワ

中木類



ウバメガシ



シャリンバイ



トベラ

(エ) 潮風地

潮風が吹きつける場所では、年間を通じて塩分にさらされることから、一般の樹木の生育は困難であり、樹種を選定を慎重に行う必要があります。植栽計画地周辺の自然植生を参考とするほか、流通している植栽材料としては、次のとおりです。但し、別途に風対策工あるいは飛砂対策工など技術的な対策もあわせて検討することが必要となります。

高木類

クロマツ(常)、カシワ(落)、カイズカイブキ(常)、ギョリュウ(落)等

低木類

アキグミ(落)、ハマナス(落)、クコ(落)、ハマゴウ(落)、ハイネズ(常)、トベラ(常)、シャリンバイ(常)、マサキ(常)、ハマヒサカキ(常)等

草本類

ハマニンニク、コウボウムギ、コウボウシバ、ハマヒルガオ、ハマニガナ、ウンラン等

高木類



クロマツ



カイズカイブキ



ギョリュウ

低木類



アキグミ



マサキ



ハマヒサカキ

草本類



コウボウムギ



ハマヒルガオ

(オ) 日陰地

建築物の北側など、一日中直射光のあたらない場所では植栽可能な樹種は極端に限られます。これらの樹種は日陰を好むのではなく耐陰性があるということで、特に陰地に耐える樹種を強陰樹と呼び、新潟で植栽可能な樹種は次のとおりです。

高木類: アスナロ (常)、ソヨゴ (常)、カクレミノ (常) 等
 低木類: アオキ (常)、イヌツゲ (常)、ヤツデ (常) 等
 地被類: ヤブコウジ、タマリユウ、ツワブキ等

高木類



アスナロ



ソヨゴ



カクレミノ

低木類



アオキ



イヌツゲ



ヤツデ

地被類



ヤブコウジ



タマリユウ



ツワブキ

(カ) 生物誘致

みどりの軸や拠点が生息域を確保し、移動経路や生息地となる、ビオトープ・ネットワークにおいて、必要に応じて生物を誘致する植栽を計画することが有効です。特に野鳥は移動性のある種が多く移動能力も高いことから、これらの餌となる実をつける樹種を検討することが望まれます。

野鳥の食餌木: クロマツ (常)、アカマツ (常)、アズキナシ (落)、サクラ類 (落)、サンシュユ (落)、ミズキ (落)、ナナカマド (落)、ヤマボウシ (落)、カキ (落)、ヤマグワ (落)、ヒメリンゴ (落)、コナラ (落)、ミズナラ (落)、アオキ (落)、イヌツゲ (落)、ソヨゴ (落)、ナンテン (落)、アキグミ (落)、イボタノキ (落)、ガマズミ (落)、ムラサキシキブ (落) 等



サンシュユ



コナラ



アオキ



アキグミ



ナンテン



ソヨゴ

(キ) 果実栽培への悪影響

市域の各所では、果実栽培を主力農業としており、これらの地域には病害虫を媒介する樹種の選定を避ける必要があります。

注意すべき種: ジャクシン (常)、ハイジャクシン (常)、カイズカイブキ (常)、タマイブキ (常)、ハイネズ (常)、ネズ (常) 等



ジャクシン



ハイジャクシン



カイズカイブキ



タマイブキ



ハイネズ



ネズ

(ク) 外来種による悪影響

日本在来の生物を捕食したり、これらと競合したりして、生態系を損ねたり、人の生命・身体、農林水産業に被害を与えたりする、あるいはそのおそれのある生物を外来生物として指定しています。植栽計画にあたっては、十分に配慮する必要があります。

主な特定外来生物（※1）

オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、アレチウリ、ボタンウキクサ等

主な要注意外来生物（※2）

イタチハギ、ハリエンジュ、ホテイアオイ、キショウブ、トウネズミモチ等



イタチハギ



ハリエンジュ



ホテイアオイ

※1 特定外来生物……海外起源の外来種であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものの中から指定された生物。特定外来生物に指定されたものについては、栽培、保管及び運搬することなどが原則禁止され、罰則規定も設けられています。

※2 要注意外来生物……外来生物法に基づく飼養等の規制はないが、生態系に悪影響を及ぼしうることから、適切な取扱いについて理解と協力の対象となる生物。

3 機能別

(ア) 防火力の高い樹木

防火植栽は、植樹によって火災時における火災延焼や飛び火する火の粉を阻止することにより火災の引き止めと放射熱の遮断を目的とする植栽です。一般に常緑で葉が厚く、水分を多く含む樹種が有利であるとされています。なお、植栽のパターンによって効果の程度に差異が生じるため、慎重な計画が必要となります。

高木類: スダジイ（常）、タブノキ（常）、ヤブニッケイ（常）、モチノキ（常）、クロガネモチ（常）、ネズミモチ（常）等

中木類: シャリンバイ（常）、カナメモチ（常）、ツバキ類（常）、サザンカ（常）、サンゴジュ（常）、マサキ（常）、アオキ（常）、ヤツデ（常）、ユズリハ（常）等

高木類



スダジイ



タブノキ



ヤブニッケイ

中木類



サンゴジュ



サザンカ



ユズリハ

(イ) 環境保全機能の高い樹木

樹木の環境保全機能は、植物の持つ本質的な機能であると同時に、植栽の効果が広く期待される機能でもあります。それぞれの機能を最大限に発揮するためには、植物の良好な生育環境を確保するための配慮が求められます。

自動車の前照灯による光害を防止する目的で設置する遮光植栽については、常緑樹を基本とし、枝葉が密で刈り込みに耐える樹種を選定することが必要です。また、緑陰効果をもたらす樹種としては、落葉樹を基本とし、逆円錐形や卵形で枝葉を多くつける樹種が望まれます。[56 ページ 第2編 第5章 一般地表部 形態別 参照]

遮光性の高い樹木

中木類: ヤブツバキ（常）、サザンカ（常）、ウバメガシ（常）、マサキ（常）、アオキ（常）、イヌツゲ（常）、シャリンバイ（常）等



サザンカ



ウバメガシ



イヌツゲ

緑陰効果の高い樹木

高木類: ケヤキ（落）、ハルニレ（落）、エノキ（落）、トチノキ（落）、ミズキ（落）、シナノキ（落）、トウカエデ（落）等



エノキ



シナノキ



トウカエデ

1 適応樹木

屋上は、人工地盤上であるほか乾燥や強風など、一般的に厳しい植栽環境となります。また、枝葉や支柱などの落下の危険性もあり、樹種の選定には十分な検討が必要となります。特に高木は、このような環境影響を大きく受けることから植栽にはあまり用いず、低木・地被類の植栽が主体となります。

(ア) 乾燥に強い樹種 (低木)

ヤマハギ (落)、アキグミ (落)、エニシダ (落)、ヤシャブシ (落)、ハマナス (落)、トベラ (常)、シャリンバイ (常)、ハイネズ (常) 等



ヤマハギ



アキグミ



シャリンバイ

(イ) 強風に強い樹種 (低木)

ヤブツバキ (常)、ウバメガシ (常)、ナワシログミ (常)、シャリンバイ (常)、トベラ (常)、マサキ (常)、ハマヒサカキ (常)、タニウツギ (落)、レンギョウ (落)、ヤマハギ (落)、ユキヤナギ (落)、アキグミ (落) 等



ハマヒサカキ



レンギョウ



ユキヤナギ

2 利用頻度の多い地被類 (グランドカバープランツ)

地被類は、地表を覆う (カバーする) ように生育する植物の総称で、茎や枝を横に伸ばして地面や壁面などを低く薄く覆うため、土壌の乾燥や土の流出、雑草を防ぐ効果があります。

セダム (常)、ユキノシタ (落)、シバザクラ (常)、リシマキア類 (常)、ギボウシ (常)、アルメリア類 (常)、ラベンダー類 (常)、ブルーカーペット (常)、エリカ類 (常)、コグマザサ (常) 等



セダム類



シバザクラ



リシマキア類



ラベンダー類



ブルーカーペット



コグマザサ

壁面緑化

1 適応樹木

壁面緑化の工法などに応じて樹種を選定する必要があります。

直接登はん型

ナツツタ、オオイタビ、ヘデラ・ヘリックス、ノウゼンカズラ等

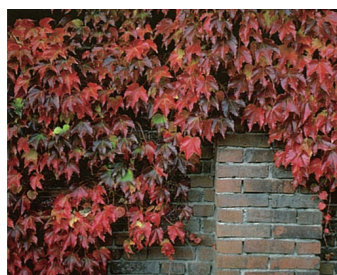
巻き付き登はん型

カロライナ・ジャスミン、テイカカズラ、スイカズラ、ムベ、ツルウメモドキ、ヘチマ、アサガオ等

下垂型

ヘデラ・カナリエンシス、ヘデラ・カナリエンシス”バリエガータ”、ピンカ・マジョール等

直接登はん型



ナツツタ



ヘデラ・ヘリックス



ノウゼンカズラ

巻き付き登はん型



カロライナ・ジャスミン



テイカカズラ



ツルウメモドキ

下垂型



ヘデラ・カナリエンシス



ピンカ・マジョール

道路緑化

1 街路樹・植樹帯

計画路線の微気象の状況や植栽基盤の環境条件など、植栽地に適した樹種を選定することが望まれます。次に示す樹種は新潟市内で比較的良好に用いられる樹種を特徴別に整理したものです。〔51 ページトピックス 新潟市の街路樹 参照〕

(ア) 荒地・乾燥地〔61 ページ参照〕



イチョウ



プラタナス



トウカエデ

(イ) 地下水位の高い所〔62 ページ参照〕



シダレヤナギ



メタセコイヤ



カツラ

(ウ) 強風地〔63 ページ参照〕



ケヤキ



ハナミズキ



ヤマボウシ

(エ) 潮風地〔64 ページ参照〕



ナンキンハゼ



ラクウショウ



オオシマザクラ

2 維持管理の容易別

(ア) 積雪耐性

道路植樹帯の植栽は、積雪や除雪による雪圧などの被害を受ける可能性が大きく、設置にあたっては雪囲いなどを行っても雪害のリスクは残ります。設置後の維持管理の低減を念頭に、今後の道路植栽においては、維持管理コストの軽減化を図ることのできる樹種の選定が必要となります。一般的には落葉樹を主体とし、枝葉が柔らかく、再生能力の高い樹種を選定します。

低木類

ヤマハギ (落)、ユキヤナギ (落)、タニウツギ (落)、レンギョウ (落)、アジサイ (落)、ガクアジサイ (落)、ウツギ (落)、シモツケ (落)、ミヤギノハギ (落) 等

宿根草

アヤメ、ヘメロカリス、カンゾウ、シャガ、アジュガ、シャスターデージー、シバザクラ、センダイハギ、ナデシコ、ムラサキカタバミ、バーベナ等

低木類



ユキヤナギ



タニウツギ



レンギョウ



アジサイ



ウツギ



ミヤギノハギ

宿根草



アヤメ



ヘメロカリス



シャガ



アジュガ



シバザクラ



バーベナ

(イ) 雑草抑制力

雑草を抑制することは維持管理コストの低減に直結する課題となっていますが、植栽直後に雑草侵入を防止する対策を取ることが後々の維持管理を行う上で効果的です。そのためには、植栽した樹木が早期に日陰をつくれるかどうか、また地被類が早期に植栽基盤全体を被覆するかどうかポイントとなります。さらに、雑草との競合に強い樹種を選定することが重要となります。

低木類: アベリア (落)、レンギョウ (落)、ハギ類 (落)、アジサイ (落)、タニウツギ (落) 等
地被類: ヘデラ類、コグマザサ、ピラカンサ、ビンカマジョール等

低木類



アベリア



レンギョウ



タニウツギ

地被類



ヘデラ類



コグマザサ



ピラカンサ

(ウ) 病虫害耐性

病虫害の発生を完全に抑制することは不可能であるが、一般的に病虫害のつきにくい樹種、病虫害があっても生育に大きな影響を与えない樹種が知られており、維持管理コストの低減を図る上で検討することが必要です。

樹種・草種特性概要と一覧表

病害虫が比較的つきにくい樹種

高木類：スギ(常)、モミ(常)、トウヒ(常)、ドイツトウヒ(常)、ヒノキ(常)、アスナロ(ヒバ)(常)、サワラ(常)、シロダモ(常)、クスノキ(常)、スダジイ(常)、タブノキ(常)、マテバシイ(常)、メタセコイヤ(落)、ラクウショウ(落)、イチョウ(落)等

低木類：アオキ(常)、ヒメアオキ(常)等



ドイツトウヒ



ヒノキ



シロダモ



マテバシイ



ラクウショウ



イチョウ

病害虫がついても、生育に大きな影響を与えない樹種

高木類：ケヤキ(落)、ヤナギ類(落)、ウバメガシ(常)、ヤブツバキ(常)等

低木類：マサキ(常)、アベリア(落)、ユキヤナギ(落)、タニウツギ(落)、アジサイ(落)、ヤマハギ(落)、シモツケ(落)、ウツギ(落)等



ケヤキ



ヤナギ類



ヤブツバキ



タニウツギ



シモツケ



ウツギ

〈高木類〉

種類	樹形	形態的特性						環境に対する適応性					備考		
		常緑 落葉 針葉 広葉	自然状態における樹高の目安				花	実	紅葉	耐寒	耐雪	耐潮		耐陰	耐乾
			20m以上	20~10m	10~2m	2m以下									
〈高木類〉															
ア	アオギリ	卵形	落・広		○						○				
	アカエゾマツ	不整形	常・針	○						○	○				
	アカシデ	卵形	常・針		○					○	○				
	アカマツ	不整形	常・針	○						○	○	○		○	
	アズキナシ	卵形	落・広		○			白	赤	赤	○	○		花：5~6月頃	
	アスナロ(ヒバ)	円錐	常・針	○						○	○	○			
	アメリカハナミズキ	卵形	落・広		○			桃、白		赤				花：4~5月頃	
	アラカシ	卵形	常・広	○									○		
イ	イタヤカエデ	不整形	落・広	○							○	○	○		
	イチイ	円錐	常・針		○						○				
	イチョウ	円錐	落・広	○						黄	○	○			
	イヌマキ	不整形	常・針	○								○			
	イロハモミジ	不整形	落・広		○					紅					
ウ	ウラジロガシ	卵形	常・広	○									○		
	ウラジロモミ	円錐	常・針	○							○	○			
	ウリハダカエデ	卵形	落・広		○					黄	○				
エ	エゴノキ	卵形	落・広		○			白		黄	○	○		花：5~6月頃	
	エゾイタヤ	不整形	落・広	○						黄	○	○	○		
	エノキ	不整形	落・広	○							○	○	○		
オ	オオシマザクラ	逆円錐	落・広		○			白		赤	○	○		花：4月頃	
	オオバボダイジュ	球形	落・広	○							○	○			
	オオヤマザクラ	逆円錐	落・広	○				白			○	○		花：1月頃	
カ	カイズカイブキ	円柱	常・針		○						○	○	○	赤星病の中間寄主	
	カシワ	卵形	落・広		○						○	○	○		
	カツラ	円錐	落・広	○						黄	○				
	カヤ	逆円錐	常・針	○							○		○		
	カラマツ	円錐	落・針	○							○	○			
ク	クスノキ	卵形	常・広	○									○		
	クヌギ	球形	落・広		○						○				
	クロマツ	円錐	常・針	○							○	○			
ケ	ゲッケイジュ	円柱	常・広		○								○	○	
	ケヤキ	逆円錐	落・広	○						赤茶	○	○	○		
コ	コウヤマキ	円錐	常・針		○						○		○		
	コナラ	卵形	落・去	○							○	○		○	
	コブシ	円錐	落・広		○			白			○	○		花：4月頃	
	ゴヨウマツ	不整形	常・針	○							○	○			
サ	サルスベリ	不整形	落・広								○	○			
	サワグルミ	卵形	落・広								○	○			
	サワラ	円錐	常・針	○							○		○		
シ	シダレウメ	枝垂	落・広			○		白・桃						花：3月頃	
	シダレザクラ	枝垂	落・広		○			淡紅						花：4月頃	
	シダレヤナギ	枝垂	落・広		○						○		○		
	シナノキ	卵形	落・広	○							○	○	○		

〈高木類〉

種類	樹形	形態的特性						環境に対する適応性					備考		
		常緑 落葉 針葉 広葉	自然状態における 樹高の目安				花	実	紅葉	耐寒	耐雪	耐潮		耐陰	耐乾
			20m 以上	20~ 10m	10~ 2m	2m 以下									
〈高木類〉															
	シラカシ	卵形	常・広	○								○			
	シロダモ	卵形	常・広		○							○	○		
ス	スギ	円錐	常・針						○	○					
	スダジイ	卵形	常・広	○								○	○		
タ	タブノキ	球形	常・広	○								○	○		
ツ	ツガ	不整形	常・針	○								○			
ト	ドイツトウヒ	円錐	常・針	○					○	○		○			
	トウカエデ	卵形	落・広		○							赤	○		
	トウヒ	円錐	常・針	○					○	○					
	トチノキ	卵形	落・広	○			白		黄	○	○		花：5月頃		
	トドマツ	円錐	常・針	○								○			
	ドロノキ	卵形	落・広	○								○			
ナ	ナツツバキ	卵形	落・広		○		白						花：6~7月頃		
	ナナカマド	卵形	落・広		○			赤	赤	○	○				
	ナンキンハゼ	逆円錐	落・広		○				黄	○					
ハ	ハウチワカエデ	逆円錐	落・広		○				赤	○	○				
	ハクウンボク	卵形	落・広		○		白			○	○		花：5~6月頃		
	ハクモクレン	卵形	落・広		○		白			○	○		花：3~4月頃		
	ハルニレ	球形	落・広	○						○	○				
	ハンノキ	卵形	落・広	○						○	○				
ヒ	ヒノキ	円錐	常・針	○						○		○			
	ヒマラヤスギ	円錐	常・針	○						○	○				
フ	ブナ	卵形	落・広	○						○	○	○			
	プラタナス	卵形	落・広	○						○	○	○			
ホ	ホオノキ	球形	落・広	○			白			○	○		花：5~6月頃		
	ボダイジュ	球形	落・広			○				○	○				
	ポプラ	円柱	落・広	○						○	○	○			
マ	マテバシイ	球形	常・広	○								○			
	ミズキ	不整形	落・広		○		白			○	○		花：5~6月頃		
	ミズナラ	卵形	落・広	○						○	○				
メ	メタセコイヤ	円錐	落・針	○						○	○				
モ	モチノキ	球形	常・広		○							○	○		
	モッコク	卵形	常・広		○							○	○		
	モミ	円錐	常・針	○								○			
	モミジバフウ	卵形	落・広	○					赤	○			(アメリカフウ)		
ヤ	ヤシャブシ	卵形	落・広		○								○		
	ヤチダモ	卵形	落・広	○						○	○				
	ヤブニッケイ	卵形	常・広		○							○			
	ヤマザクラ	逆円錐	落・広		○			赤	○	○					
	ヤマハンノキ	卵形	落・広		○					○	○		○		
	ヤマモミジ	不整形	落・広		○				赤	○	○				
ユ	ユリノキ	卵形	落・広	○			緑黄		黄	○	○		花：6~7月頃		
ラ	ラクウショウ	円錐	落・針	○					黄	○	○				

〈中木類〉

種類	樹形	形態的特性						環境に対する適応性					備考		
		常緑 落葉 針葉 広葉	自然状態における 樹高の目安				花	実	紅葉	耐寒	耐雪	耐潮		耐陰	耐乾
			20m 以上	20~ 10m	10~ 2m	2m 以下									
〈中木類〉															
ア	アオキ	常・針			○				赤				○		
	アキグミ	落・広			○				赤			○	○		
イ	イヌツゲ	常・広			○							○			
	イボタノキ	半落・広			○		白			○	○	○	○	花：5月頃	
	ウバメガシ	常・広			○							○	○		
	ウメモドキ	落・広			○				赤						
エ	エゾユズリハ	常・広			○								○		
	エニシダ	常・広			○		黄			○	○		○	花：5~6月頃	
オ	オオデマリ	落・広			○		白			○	○			花：5月頃	
カ	カイドウ	落・広			○		桃			○				花：4月頃	
	カクレミノ	常・広			○							○	○		
	カナメモチ	常・広			○								○		
	ガマズミ	落・広			○		白	赤	赤	○	○			花：3月頃	
	カンツバキ	常・広			○		赤			○	○	○		花：12~2月頃	
キ	キョウチクトウ	常・広			○		紅					○		花：6月~9月頃	
	ギョリュウ	落・広			○		淡紅					○	○	花：4~5月頃	
	キンモクセイ	常・広			○		橙							花：10月頃	
コ	コマユミ	落・広			○				赤	○	○				
サ	サザンカ	常・広			○		赤、白					○		花：11~12月頃	
	サルスベリ	落・広			○		紅					○		花：7~9月頃	
	サンゴジュ	常・広			○				赤			○	○		
	サンシュユ	落・広			○		黄			○	○			花：3月頃	
シ	シキミ	常・広			○								○		
	シダレヤナギ	落・広			○							○	○		
	シャリンバイ	常・広			○		白			○	○	○		花：5月頃	
ス	ズミ	落・広			○				赤	○	○				
ソ	ソメイヨシノ	落・広			○		淡紅			○	○	○		花：4月頃	
	ソヨゴ	常・広			○										
タ	タニウツギ	落・広			○		淡紅			○	○	○	○	花：6月頃	
	タムシバ	落・針			○		白					○		花：4月頃	
ツ	ツリバナ	落・広			○				赤	○	○				
ト	ドウダンツツジ	落・広			○		白		赤	○				花：5月頃	
	トベラ	常・広			○							○	○		
ナ	ナツグミ	落・広			○				赤			○	○		
	ナツハゼ	落・広			○				赤	○	○				
	ナワシログミ	常・広			○				赤						
	ナンテン	常・広			○				赤	赤					
ネ	ネズミモチ	常・広			○							○	○		
	ネムノキ	落・広			○		淡紅			○	○	○	○	花：7月頃	
ハ	バイカウツギ	落・広			○		白		黄					花：6~7月頃	
	ハコネウツギ	落・広			○		淡紅			○	○			花：5~6月頃	
	ハナミズキ	落・広			○		白・赤							花：4~5月頃	
ヒ	ヒイラギモクセイ	常・広			○							○	○		

〈中木類〉〈低木類〉

種類	形態的特性						環境に対する適応性					備考		
	常緑 落葉 針葉 広葉	自然状態における樹高の目安				花	実	紅葉	耐寒	耐雪	耐潮		耐陰	耐乾
		20m以上	20~10m	10~2m	2m以下									
〈中木類〉														
ヒ	ヒサカキ	常・広			○						○	○		
	ヒメリンゴ	落・広			○				○					
	ピラカンサ	常・広			○		赤		○	○				
フ	フヨウ	落・広			○	白、桃			○	○			花：7~10月頃	
マ	マサキ	常・広			○				○	○	○	○		
	マユミ	落・広			○		赤		○					
	マルハシャリンバイ	常・広			○	白			○	○	○	○	花：5月頃	
	マルバマンサク	落・広			○		黄		○	○				
	マンサク	落・広			○	黄			○	○			花：3~4月頃	
ミ	ミツバツツジ	落・広			○	紅紫			○				花：4~5月頃	
ム	ムクゲ	落・広			○	紫、白			○	○			花：7~9月頃	
	ムラサキシキブ	落・広			○				○	○	○			
モ	モクレン(シモクレン)	落・広			○	紫、白	黄		○	○			花：4月頃	
ヤ	ヤエザクラ	落・広			○	淡紅			○	○			花：4~5月頃	
	ヤツデ	常・広			○					○	○			
	ヤブツバキ	常・広			○	赤				○	○		花：3~5月頃	
	ヤマツツジ	半落・広			○	赤			○				花：4~5月頃	
	ヤマハギ	落・広			○	濃紫			○	○		○	花：9月頃	
	ヤマボウシ	落・広			○	白			○	○			花：6~7月頃	
ユ	ユキツバキ	常・広			○	赤			○	○			花：3~5月頃	
	ユズリハ	常・広			○									
ラ	ライラック	落・広			○	淡紫			○				花：4~5月頃	
リ	リョウブ	落・広			○	白	黄		○	○		○	花：6~7月頃	
レ	レンギョウ	落・広			○	黄			○	○	○	○	花：4月頃	
〈低木類〉														
ア	アジサイ	落・広			○	青紫			○	○			花：5~6月頃	
	アベリア	半落・広			○	白			○	○	○		花：7~10月頃	
ウ	ウツギ	落・広			○	白			○	○			花：6月頃	
カ	ガクアジサイ	落・広			○	青			○	○			花：6~7月頃	
キ	キャラボク	常・針			○				○	○	○			
	キンシバイ	半落・広			○	黄			○				花：6~7月頃	
ク	クチナシ	常・広			○	白					○		花：7月頃	
	クルメツツジ	常・広			○	紅紫							花：5~6月頃	
コ	コデマリ	落・広			○	白			○	○			花：5~6月頃	
	コトネアスター	常・広			○		赤		○	○				
	コマツナギ	落・広			○	紅紫			○				花：8~9月頃	
サ	サツキツツジ	常・広			○	赤			○	○			花：6月頃	
シ	シモツケ	落・広			○				○	○				
	ジンチョウゲ	常・広			○	紫、白					○		花：4月頃	
セ	セイヨイワナンテン	常・広			○									
ニ	ニシキギ	落・広			○		赤	赤						
ネ	ネコヤナギ	落・広			○				○	○				
ハ	ハイネズ	常・針			○				○	○		○	赤星病の中間寄主	

〈低木類〉

種類	形態的特性						環境に対する適応性					備考		
	常緑 落葉 針葉 広葉	自然状態における樹高の目安				花	実	紅葉	耐寒	耐雪	耐潮		耐陰	耐乾
		20m以上	20~10m	10~2m	2m以下									
〈低木類〉														
ハ	ハイバクシン	常・針				○					○	○	○	赤星病の中間寄主
	ハクチョウゲ	常・広				○	白					○		花：6月頃
	ハマゴウ	落・広				○	紫				○	○	○	花：7~8月頃
	ハマナス	落・広				○	紅				○	○		花：5~6月頃
	ハマヒサカキ	常・広				○					○	○	○	
ヒ	ヒメアオキ	落・広				○		赤			○	○		
	ヒラドツツジ	常・広				○	淡紅							花：5月頃
フ	フッキソウ	常・広				○	白					○		花：6月頃
ホ	ボケ	落・広				○	赤				○			花：4~5月頃
	ボックスウッド	常・広				○					○			
マ	マルバシモツケ	落・広				○	挑				○	○		花：6~7月頃
ミ	ミヤギノハギ	落・広				○	紅紫				○	○	○	花：9月頃
モ	モンタナハイマツ	常・針				○					○	○		
ヤ	ヤマブキ	落・広				○	黄				○			花：4~5月頃
ユ	ユキヤナギ	落・広				○	白				○	○	○	花：4~5月頃
レ	レンゲツツジ	落・広				○	橙				○			花：6月頃

この一覧表は、「建設物価」、「積算資料」などの資料のうち、北陸地域に植栽可能で市場性の高い樹木で構成しています。

〈道路緑化技術基準・同解説による樹木の分類（再掲）〉

高木	道路植栽のうち、樹高3m以上の樹木をいい、道路緑化の中心となるものである。限られた道路空間に植栽されるため、定期的に剪定を行い、生長を抑制する必要がある。
中木	道路植栽のうち、樹高1m以上3m未満の樹木をいう。高木と低木の間層を構成し、高木を補完する機能を持つ。人の目線に近く、見通しの確保の留意する必要がある。
低木	道路植栽のうち、樹高1m未満の樹木をいう。高木の根締めとして使用するほか、高木や中木を植栽できない場所などに用いる。見通しの確保のため、定期的な刈り込みが必要である。
地被植物	地表面を密に覆う形で生育し、丈の低いもの、刈り込みなどの管理によって容易に丈を低く維持できるものをいう。

〈植物学による分類〉

ツタ類	ブドウ科ツタ属のつる性の植物のことをいう。
草本類	樹木のように大きくなり、太く堅い幹を持たない植物のことをいう。
宿根草	多年生の草本のうち、生育に適さない時期（多くの場合冬であるが、夏のこともある）には、地上部が枯れてしまうが、それをすぎると発芽して、再び生育を始めるものをいう。